

地域の

公共施設の 未来を考える ワークショップ

【第2回】 高津区



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



1

あいさつ・本日の目的

あいさつ

第1回ワークショップでは、「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」を通じ、資産マネジメントの考え方について理解を深めていただきました。

ゲームは、「**公共施設を様々な世代のニーズに合わせて活用しながら、魅力的なまちを作りだしていく**」という内容でしたが、今回からは、実際に皆さんがお住まいの地域を対象とし、今ある公共施設をみんなで大事に賢く使っていくことについて考えていただきます。

本日の目的

今回の第2回ワークショップでは、20年後の将来を思い浮かべていただきながら「地域の魅力的な将来像」を考えていただき、「将来像を実現するための公共施設の使い方」について意見交換をしていただきたいと思います。

令和5年度

第2回

モデル地域の魅力的な将来像、施設の使い方を考える

第1回
カワタン実施

令和6年度

第3回

地域内の施設の使い方を考える①

第2回で話し合ったモデル地域の魅力的な将来像等を踏まえ、その実現のために必要な施設の使い方を、具体的な施設を基に考える

第4回

地域内の施設の使い方を考える②

前回に引き続き、具体的な施設を基に考える
※グループごとに第3回とは別の施設について考える予定

第5回

地域内の施設の使い方共有、まとめ

これまでの検討を全体で共有した上で、具体的な施設の使い方を考え、意見をまとめる

本日の進め方

- 14:00 あいさつ・本日の目的（5分）
- 14:05 川崎市からの説明①、②（15分）
- 14:20 意見交換① 地域の魅力的な将来像を考えよう(65分)
- 15:25 - 休憩 - (10分)
- 15:35 意見交換② 魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方
を考えよう (60分)
- 16:35 発表・まとめ（15分）
- 16:50 川崎市からの説明③、アンケート記入、閉会（10分）

連絡事項

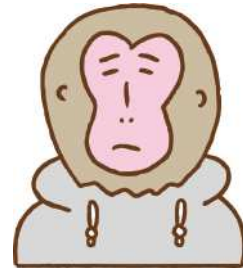
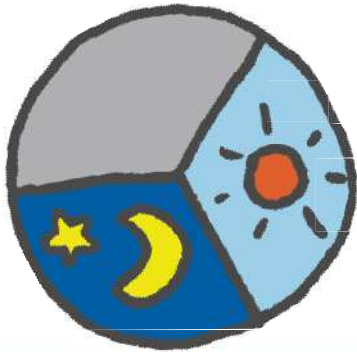
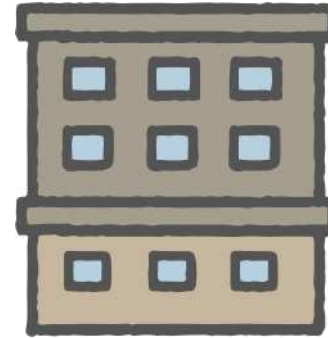
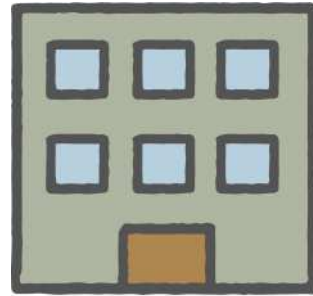
- ・ 記録作成のため、スタッフが写真撮影をします。
NGの方はお近くのスタッフまでお知らせください。

2

川崎市からの説明①

～第1回ワークショップの振り返り～

地域の公共施設について



多様な市民ニーズに対し、
公共施設が利用できない・利用されていないという、
ニーズと現状に「ずれ」が発生している状況です。

川崎市の公共施設等に関する状況

人口減少に伴い、1人あたりが保有する公共施設の床面積
が増加し、老朽化した建物を維持管理・更新するための
市民1人あたりの費用負担が増大



全ての公共施設をこれまでと同様に更新していくことは
非常に困難な状況です。

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて

- 市民ニーズと公共施設の現状に「ずれ」が発生している
- 全ての公共施設をこれまでと同様に更新していくことが非常に困難



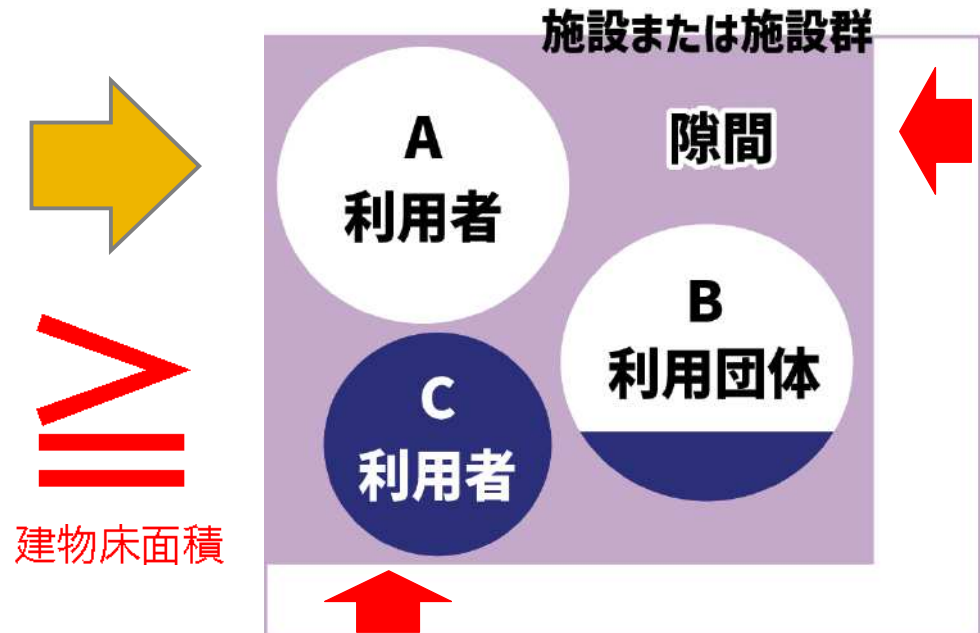
「ずれ」を解消し、
ニーズに合った公共施設としていくためには、
「今ある公共施設」の使い方が重要です。

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて

【公共施設の現在の使い方イメージ】



【公共施設の将来の使い方イメージ】



公共施設の使い方を変えることで、
現状以下の建物床面積で、様々な利用者や
利用団体を受け止めることが可能となります。

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて



ワークショップを通じて、
今ある公共施設を
みんなで大事に
賢く使っていく
方法を考えよう！

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」概要

公共施設の使い方を考える「資産マネジメント」の考え方を
ゲーム形式で体験し理解を深めるため、

当日の参加者を4～6名のグループに分け、

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」を実施しました。

架空のまち「カワサキタウン」にある公共施設を
様々な世代のニーズに合わせて活用しながら
魅力的なまちを作り出すことを目標とし、
各グループにてカワタンをプレイしました。

4区の参加者数

麻生区	27
川崎区	18
幸区	27
高津区	27
計	99

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」 麻生区の様子



「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」 川崎区の様子



「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」 幸区の様子



「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」

高津区の様子



「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」結果

カワタンのキャッチフレーズ

麻生区	学びの場は多世代のつどいの場	前世代も将来世代もいきいき暮らせるよう生まれ変わるまち	ITを活用した複合コンパクトタウン	コンパクトスマートタウン	みんなおいでよ！カワサキタウン ～オンラインにもリアルにも居場所がある心地よいまち～	赤ちゃんから高齢者まで安心して一生すみ続けられるまち
川崎区	IT活用とリア充タウン	ITとシニアやこどものつながりの場のワクワクタウン	オンラインで多世代交流シティ	シニア世代も安心して使えるスマートタウン		

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」結果

カワタンのキャッチフレーズ

幸区	中心地も住宅地もサービス充実、皆が満足なまち	多世代融合センターを核にしたまち	スポーツでお金もGET！みんな楽しく元気なカワタン	多世代がゆるくつながるまち	IT化が進み元気なシニアが活躍するまち	業務は効率化しても人とのつながりはいつまでも
高津区	マルチ世代イキイキタウン	AI(あい)・AI(エーアイ)で生涯学習のまち	文武両道イキイキシニアタウン	卒業がないまち	世代をこえて住みやすいみんなのホームタウン	WA (和・輪) ～未来を見据えて～

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」結果

（※全区分の結果をまとめたもの）

こだわったこと・押しポイント

- 多世代、全世代が集うことができるサービス・施設を配置、コマの配置を工夫した
- 多世代が同じ建物を使うことで、属性が混じり合うよう工夫した
- IT化による省資源化、コスト削減。住宅地と中心地をつないだ
- 対面の教育機能を維持するため、小学校を維持・再建した
- 小学校を多世代交流の拠点とした
- 子どもの人口は減るが、育児相談のサービスは残した
- シニアの学びや世代にこだわらない生涯学習を大切にした
- 元気なシニアが働き、活躍する まち
- スポーツを通じた居場所づくり、健康増進
- 無駄をなくし、集約するなどして効率化を進めた

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」結果

（※全区分の結果をまとめたもの）

こだわったこと・推しポイント

- ・ 住民のニーズを考えながら、世代に合ったサービスを提供する、住宅地に元々なかったサービスを提供するなど、工夫した
- ・ 売却や貸し出しによる更地の有効活用
- ・ 既存の建物を生かして、施設を新設しない
- ・ 今までにない施設、広場ができた
- ・ 中心地と住宅地の差がなくなるよう工夫した
- ・ 民間企業との連携
- ・ コミュニケーションを重視して、あえてリアルな窓口を残す
- ・ 住宅地に他世代交流が可能な施設を設置
- ・ 更地を震災後の仮設住宅を建設する場所として確保した
- ・ 子育てしやすいまちにこだわった

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」結果

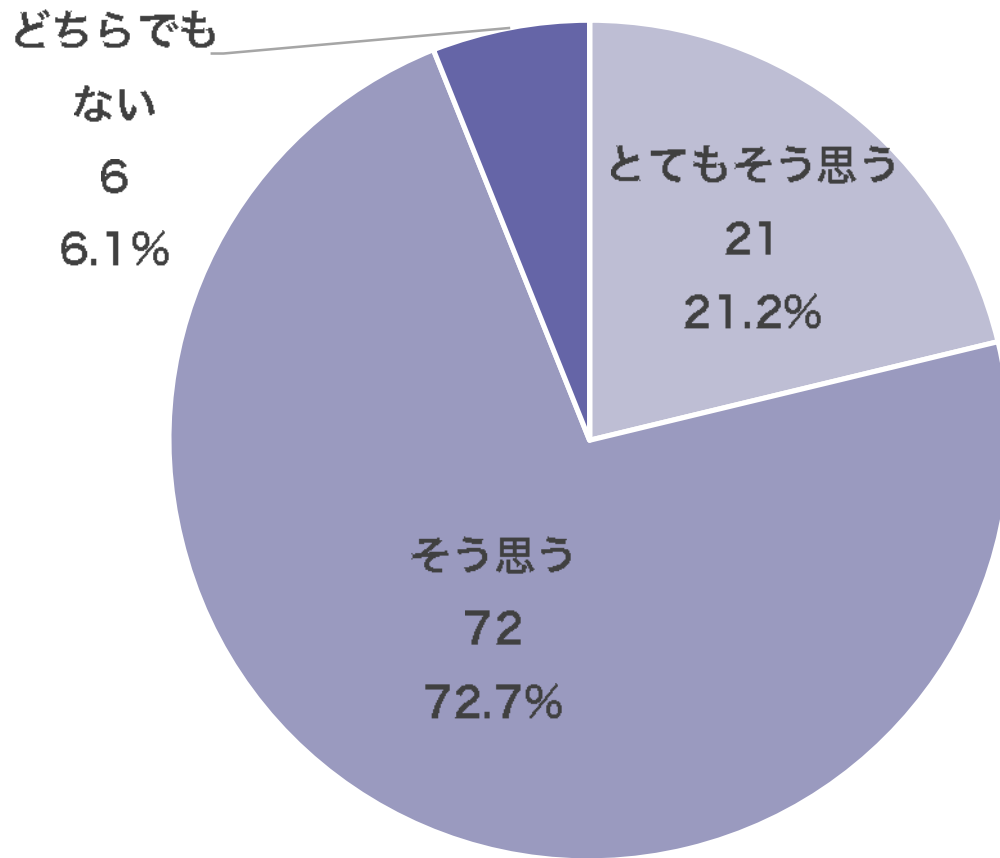
（※全区分の結果をまとめたもの）

こだわったこと・押しポイント

- キラッと問題解決カードを活用した
- 明るい未来のために住みやすいまちにこだわった
- 福祉サービスの窓口を充実させた
- 時代に合わせて柔軟に変化していくまちにこだわった

-参加者アンケートの結果-

4. ゲームを通じて資産マネジメントの取組みについて理解できましたか？



とてもそう思う	21	21.2%
そう思う	72	72.7%
どちらでもない	6	6.1%
あまり思わない	0	0.0%
全く思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	99	100.0%

–参加者アンケートの結果–

[自由記述概要]

○をつけた理由やゲームを通じて学んだことなどをお書きください。

○「とてもそう思う」理由

- ゲームを通じて、公共の資産マネジメントや公共施設について理解を深めることができてよかった
- サービスを減らす、代替場所を確保する、費用を捻出するなどしながら、理想のまちを実現するのは大変だとわかった
- お金や人の流れを考える必要があることがわかった
- 財政難の問題があっても、集約化によって公共施設の維持や市民サービスの向上が可能だとわかった
- 時間、曜日、年齢層など、効果と施設をマッチングする見通しがわかった
- 施設の老朽化や少子高齢化が深刻な問題になっているとわかった
- ゲームが楽しく、あっという間の3時間だった
- 市からの説明時間があってよかった
- 民間の協力を得る必要性を感じた
- 様々な視点があることがわかった

－参加者アンケートの結果－

[自由記述概要]

○「そう思う」理由

- ・ 時代とともに変化するリスクを俯瞰した視点から捉えることができ、時代ごとにバランスを取り、資産運用の最適化を考えることが大切、大変だと感じた
- ・ 限られた資産の中で、維持費、管理費、運営費に目を向けながら、市民の需要について考えられた
- ・ 長い目で施設について考え、老朽化等を見据えながら施設を有効活用することが必要だと感じた
- ・ 資産マネジメントの考え方や世代ごとの考え等がわかり勉強になった
- ・ 高齢化が進み、子どもや働き世代が減っていくことを切実に感じた
- ・ オンライン化により省スペース・省資源が可能になるが、リアルな場面の役割が薄くなると感じた
- ・ 公共資産の活用によって市民生活を向上させられると感じた
- ・ ゲーム形式で施設の統廃合や活用方法などのイメージをつかむことができた
- ・ ゲーム感覚だったので、色々なアイデアが出るとは思わなかった
- ・ ゲームは難しかったが、楽しかった。説明で理解できた
- ・ シニアの活躍の場を増やししながら、区民に優しいまちづくりを進める必要があると感じた

–参加者アンケートの結果–

[自由記述概要]

○「そう思う」理由（続き）

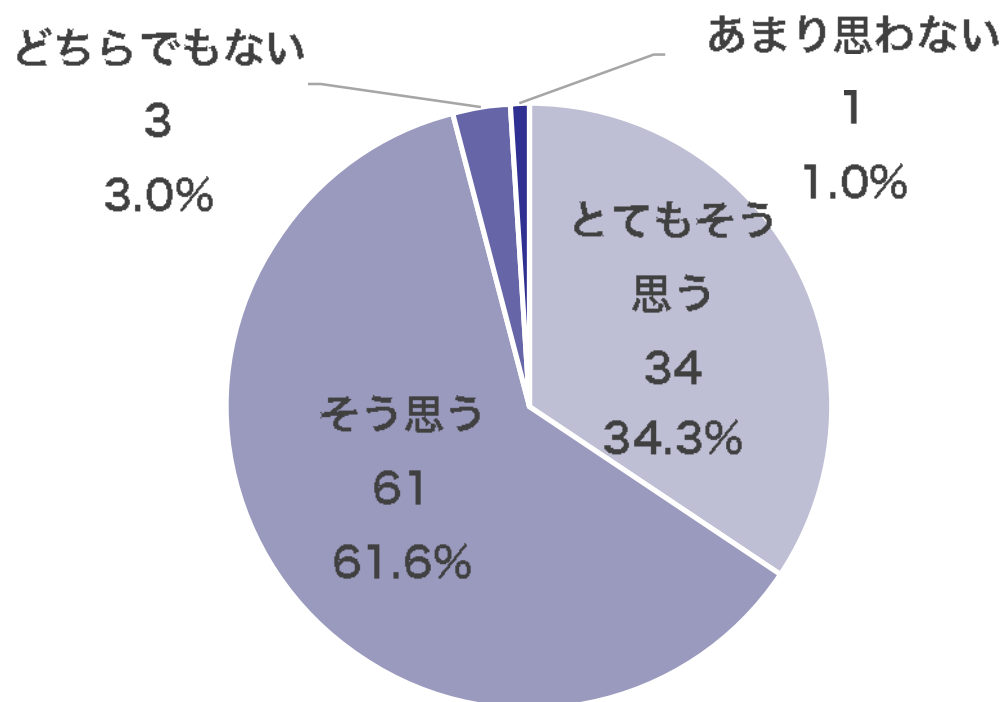
- まちを良くするために色々と考えられてよかった、さらに考える必要性を感じた
- 新しいサービスを提供することができるという点が印象的だった
- 色々な公共施設があることがわかった
- クリアに囚われたところがあり、もう一度やってみたい

○「どちらでもない」理由

- 施設の削減や増加、官民連携に関する説明・合意コストや解体費が入っていないので、自らの理解度が足りていないような気がする
- ゲームのルールが理解できず戸惑った

－参加者アンケートの結果－

5.ワークショップを通じて、地域ごとの資産保有の最適化への関心は高まりましたか？



とても思う	34	34.3%
そう思う	61	61.6%
どちらでもない	3	3.0%
あまり思わない	1	1.0%
全く思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	99	100.0%

※小数点第二位以下四捨五入

-参加者アンケートの結果-

[自由記述概要]

○をつけた理由やゲームを通じて学んだことなどをお書きください。

○「とてもそう思う」理由

- 市民ニーズに合わせて、まちをより良くしていけると良いと思った
- 今まであまり考えたことがなかったが、資産マネジメントについての関心が高まった
- 公共施設について、もっとよく知りたくなった、利用したくなった
- 働き・子育て世代として子ども世代の負担を軽くするためにも今努力する必要があると感じた
- 新たな視点や課題に気づいた
- 実際はもっと複雑だと思うが、予算を考えるのは大変だと感じた
- 少子高齢化や建物の老朽化を踏まえて、資産を効率化し、多世代交流を進めていくという流れを感じた
- 災害後の土地運用に興味を湧いた
- 次回の具体的な議論が楽しみ
- 施設のライフサイクルコストが建設費の10倍ということに驚いた
- 世代によって視点が違うことを感じた

－参加者アンケートの結果－

[自由記述概要]

○「とてもそう思う」理由（続き）

- ・ 自分が住んでいる区でも、状況がわからないことが多いと感じた
- ・ 似た施設が併存していると感じた
- ・ 住宅地エリアの施設の売却や貸し出しが難しかった
- ・ 子どもの遊び場が少なくて困っているので、資産の最適化によって増えるといい
- ・ 市や区が色々と考えていることが伝わり、身近に感じるようになった

○「そう思う」理由

- ・ 公共施設の現状や展望について考えるきっかけになった
- ・ 老朽化した建物の利活用をしっかりと考える必要があると感じた
- ・ 資産マネジメントの大切さを感じた
- ・ 施設の使われ方について、どうしていけば良いか考えるきっかけになった
- ・ 税金が適切に使われるためにも、資産マネジメントは大切だと思った
- ・ 施設は市民ニーズに合った活用をしていく必要があると感じた
- ・ 予算が逼迫することなどの課題が見えてきた

ー参加者アンケートの結果ー

[自由記述概要]

○「そう思う」理由（続き）

- 予算が限られている中で、市民の利用しやすさ等も考慮すると優先順位づけが難しい
- 世代の変化や老朽化、災害など地域全体として考えていく必要があるとわかった
- これまでより意識的に公共施設を見て、自分自身が活用していきたいと思った
- 中心地と住宅地等、地域ごとに考える必要性を感じた
- シニアが増え、子どもが減ることを実感した
- 施設の役割について考えることができた
- 長い目で見ることが大切だと思った
- 将来の川崎が心配になった
- 施設の利用用途や役割を変えていくというイメージが持てた
- ポイントを覚えておきたい
- どう予算を増やすか考える必要があると感じた
- 区ごとの独自性がどれくらいあるのか気になった
- まだまだ変化することで、よくしていけるという視点を持つことができた
- 費用対効果を考える必要がある

ー参加者アンケートの結果ー

[自由記述概要]

○「そう思う」理由（続き）

- ・ シニアが活躍していくと良いと思った
- ・ 平等に資産を配分することは難しい

○「どちらでもない」理由

- ・ 新しい建物などを建てるのではなく、今ある物を活かす事もしていけると思う

川崎市の主な公共施設

区役所・支所・出張所

施設数：

区役所→7施設、出張所→4施設

支所 →2施設

幸区役所



大師支所



生田出張所



地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）

地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）は、各区役所内部に設置されています。

主に地域ケア推進課、地域支援課、児童家庭課、高齢・障害課、保護課、衛生課からなり、すべての市民が安心して暮らし続けることができるよう、サービスを提供しています。

中原区地域みまもり支援センター

地域みまもり支援センターは

福祉事務所・保健所支所

地域まもり支援センターは、保健師・栄養士・社会福祉職などの専門職が各課の専門性を活かしながら、高齢者、障害者、子どもや子育て中の親など、すべての市民が安心して暮らし続けることができるよう、関係機関とともに、一人一人に寄り添い、連携して取り組んでいます。

センターは区役所の2階・3階にあり、
さまざまな相談や申請を受け付けていますので、
お気軽にご利用ください。



子どもから
高齢者まで **皆さんの力になります!**

子育て世代の声

子どもの成長に寄り添う

妊婦が分かり、母子健康手帳をもらって、プレパパ・プレママ向けの育英学級にも参加。助産師から話を聞いて、出産への不安が和らぎました。

児童家庭 保育所入所説明会で情報を見て、どんな手続きが必要なのかわかりまし

子どもと一緒に乳幼児健診へ。子どもの発育や発達について医師の診察を受け、栄養士にも相談できました。健診でもらった「宮前区子育てお助けガイド」の栄養士の作ったレシピを見て母乳量や幼児食を学べました。

関係課が連携
こども子育て情報
on Twitter で見
つけたイベントに
参加したら、友だ
ちができました

区にも予備で施設がある。

高齢者の声

関係者が連携
近助
QRコード

関係者が連携
新型コロナウイルス感染症の流行、
宮崎市民館のギャラリーで「高齢者の生
活と介護」に関する展示、に立ち寄り、足
腰が痛くなり、もの忘れも出てきて心配
な来訪のこころを相談。そこでやめたこと
まで、お話しに、介護保険
を申請。後日、どのくら
いの介護が必要なのかに、
決まらずてきました。

（安心できる日々の暮らしのために）

関係課が連携

衛生課
おローニナリクス感染症の対策支援
などを行っています。動物愛護、犬の飼育、
犬の飼育環境の改善、犬・食餌や住まいの衛生に
ついてご案内しています。

一人一人の生活状況に合わせた支援

担当者とその家族が地域で安心して暮らせるよう、障害者手帳を交付し、さまざまな福祉制度の案内や相談に当たっています。

保護 利権争いで収入が減り、生活が苦しくなった場合には、生活保護の相談ができます。

偏散の誤が強みや専門性を
失かして、薄損しています！

小学校・中学校・ 高等学校・特別支援学校

施設数：

市立小学校→114校

市立中学校→52校

市立高等学校→5校

市立特別支援学校→4校

富士見台小学校



市民館・市民館分館

中原市民館

市民館は、市民の生涯学習を支援するための社会教育施設です。「公民館」と「文化会館」という2つの性質を兼ね、市民自治を育てていく中心的な学習施設として位置づけられており、多様な市民のニーズに対応する施設を備えています。

施設数：分館含め市内14か所

主な施設：

ホール、会議室、和室、実習室、視聴覚室、音楽室、料理室、体育室、児童室、ギャラリー、グループ室、授乳室他



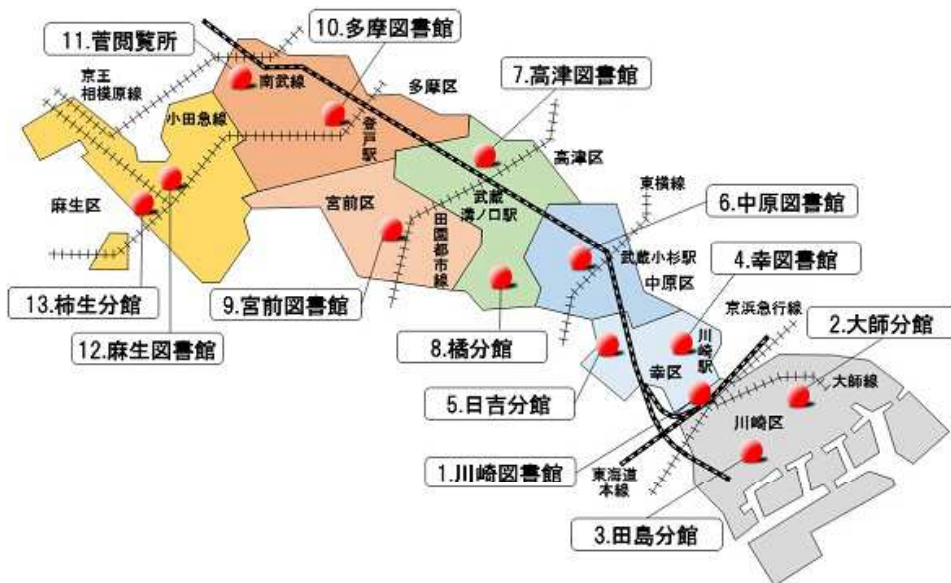
図書館・図書館分館

高津図書館

施設数：分館・閲覧所含め市内13か所



大師分館



こども文化センター

こども文化センターは、地域児童の健康を増進するとともに、情操を豊かにすることを目的として、遊びや集団活動を通し、子どもの健全育成を図る施設です。

集会室、図書室、遊戯室、学習室などがあります。

施設数：市内５８か所

※他に民間児童館が１か所あり

利用時間：午前９時３０分～午後９時

利用資格：地域の児童と児童福祉関係者
及び市民活動団体等

浅田こども文化センター



老人いこいの家

老人いこいの家は、老人に対し、健全ないこいの場を提供し、もって老人の心身の健康増進を図ることを目的とした施設です。

施設数：市内４８か所

利用時間：午前９時～午後４時

利用資格：市内居住の６０歳以上の方



老人福祉センター（いきいきセンター）

多摩老人福祉センター

老人高齢センターは高齢者のために、
教養の向上、健康の増進及び活動を広げ
るための各種講座や、利用者間の交流等
を目的とした各種行事を実施しています。

また、生活や健康についての各種相談
に応じています。

施設数：市内7か所

利用時間：午前9時～午後4時

利用資格：市内居住の60歳以上の方



スポーツセンター

スポーツセンター

施設数：市内7か所

主な施設：

体育館、トレーニング室、
研修室、ランニングコース、
プレイルーム、区民サロン他



その他健康・スポーツ施設

カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）

健康・スポーツ施設はスポーツセンターの他に、陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール、相撲場・弓道場、生田緑地ゴルフ場、ヨネッティー王禅寺等があります。



3

川崎市からの説明②

～モデル地域の状況等について～

高津区の特徴

～高津区ってどんなところ？～

高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～

地形の特徴

多摩川に形づくられた平坦な地形と多摩丘陵の一角を形成する
丘陵地によって構成された起伏のある地形が特徴

○ 平坦な地形の例



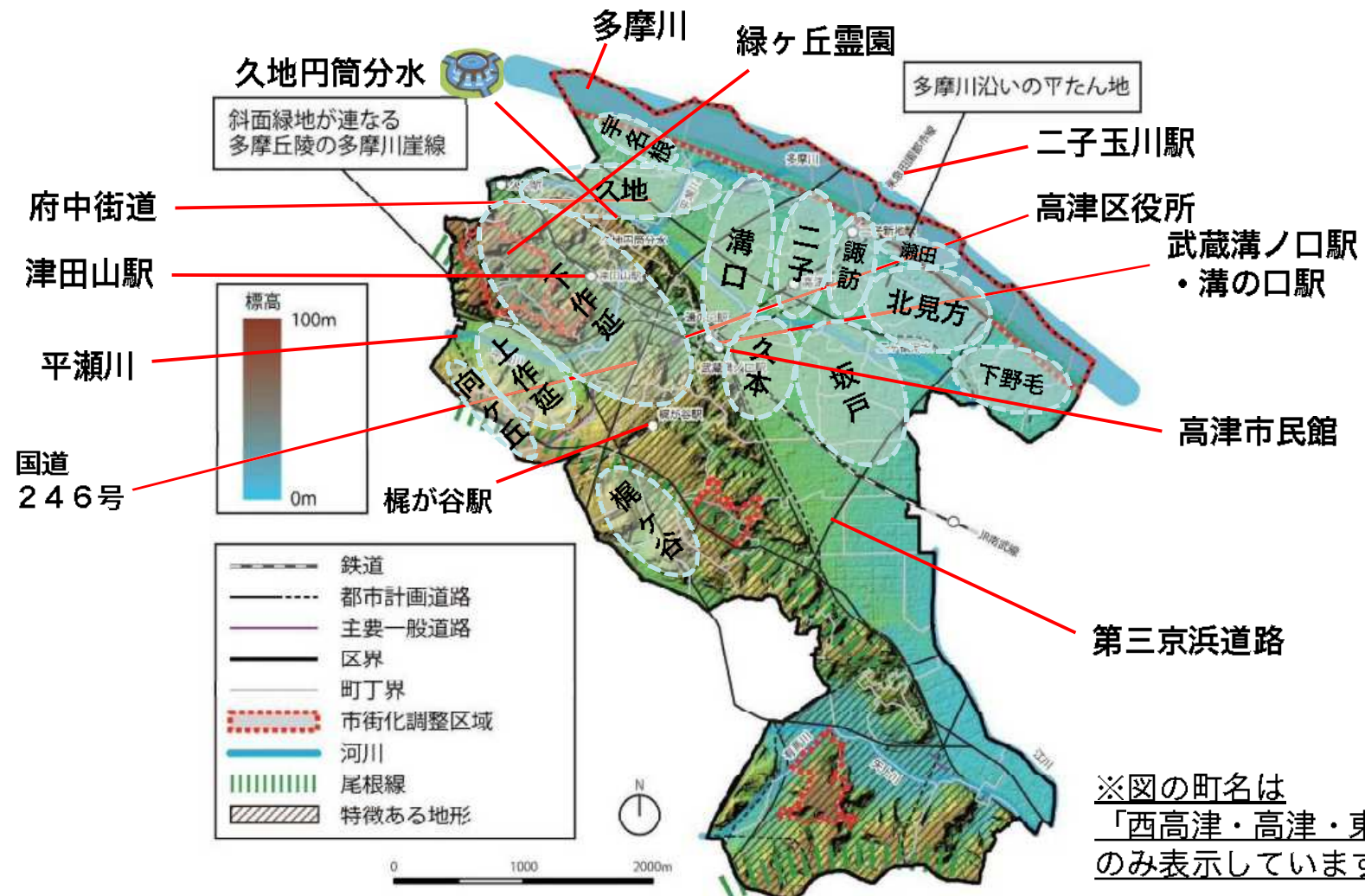
二子橋付近からの高津区遠景

○ 起伏のある地形の例



上作延周辺

高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～ 地形の特徴



(参考) 川崎市都市計画マスタープラン高津区構想 (令和2年12月改定版) 45

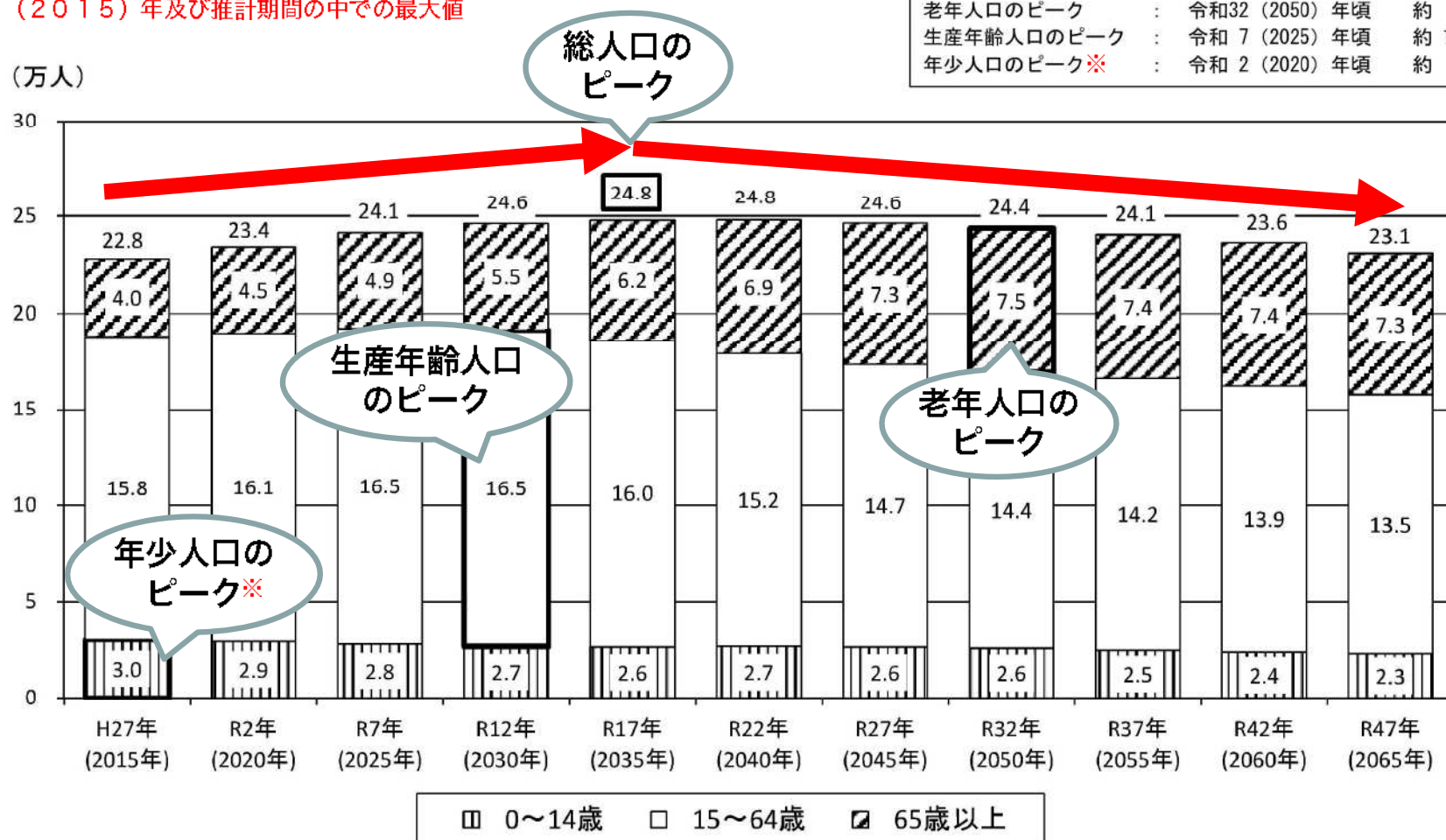
高津区の将来人口推計結果

高津区の人口は令和17（2035）年頃の約24.8万人をピークに、その後は減少過程への移行が想定されています。市全体の推計と比較して、総人口及び生産年齢人口のピークが遅いのが特徴です。

※基準となる令和2（2020）年と平成27（2015）年及び推計期間の中での最大値

川崎市の推計

総人口のピーク	：	令和12（2030）年頃	約 160.5万人
老年人口のピーク	：	令和32（2050）年頃	約 47.5万人
生産年齢人口のピーク	：	令和7（2025）年頃	約 106.0万人
年少人口のピーク※	：	令和2（2020）年頃	約 19.0万人



人口構成の特徴

- 夜間人口100人に対する昼間人口は76.3人

(参考) 令和2年度国勢調査

昼間は通勤、通学などで区外へ出ている人が多い特徴があるよ



夕方以降や土日に施設を使いたい人がいるかもしれない

- 小・中学校の児童数の人口に占める割合は市内では2番目に高い数値

(参考) 令和2年度国勢調査

他区に比べて、人口に占める子どもの割合が多い特徴があるよ



子どもや子育て支援が求められているかも

高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～

区民ニーズ

区民アンケートの例

■調査期間

令和2（2020）年
10月1日～10月31日

■調査対象

高津区在住の満18歳以上の
男女個人（住民基本台帳から
無作為抽出）

■有効回収数

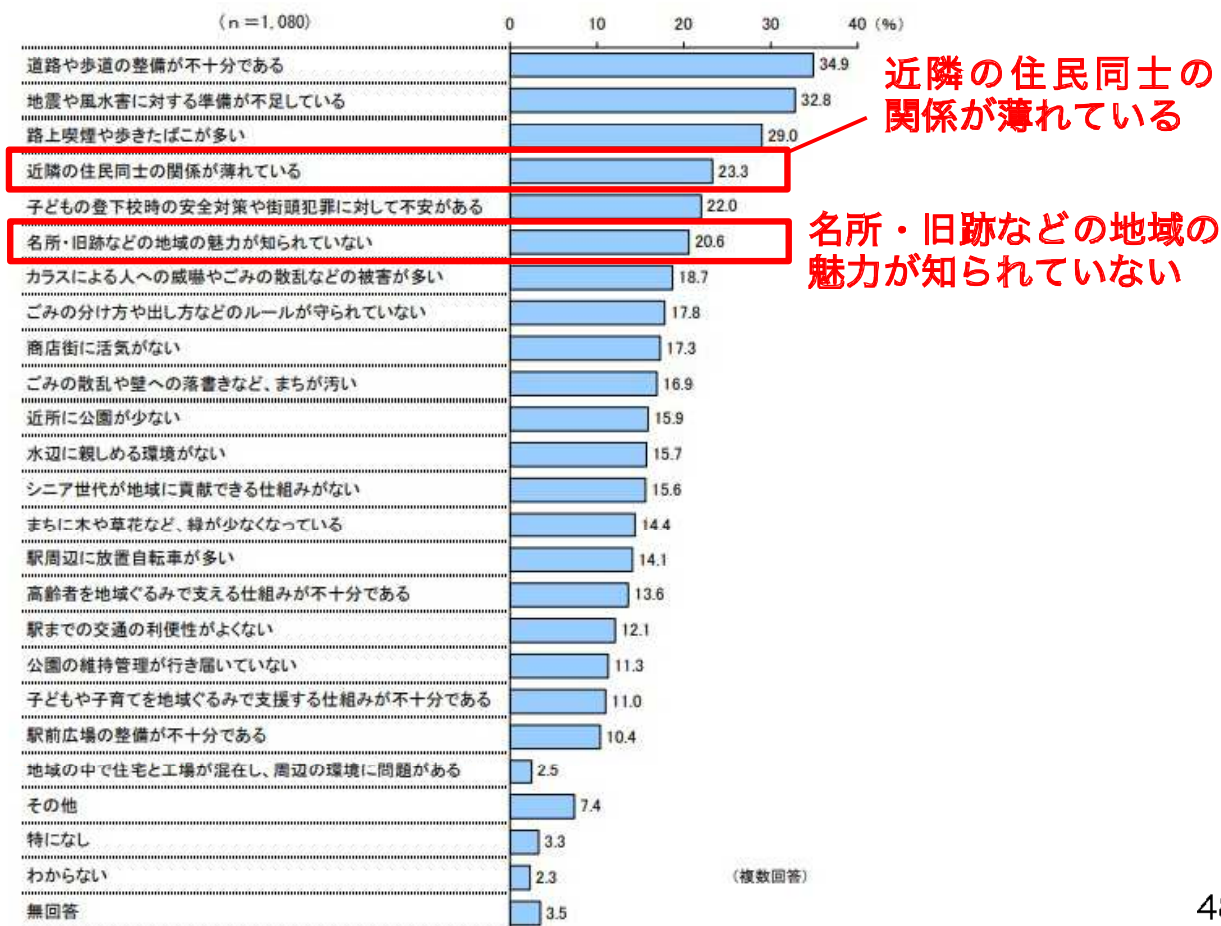
1,080件

■有効回収率

54.0%

まちの課題・問題点

「道路や歩道の整備が不十分である」（34.9%）が3割半ばで最も高く、次いで「地震や風水害に対する準備が不足している」（32.8%）、「路上喫煙や歩きタバコが多い」（29.0%）、「近隣の住民同士の関係が薄れている」（23.3%）となっている。（報告書P76）



高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～

区民ニーズ

区民アンケートの例

■調査期間

令和2（2020）年
10月1日～10月31日

■調査対象

高津区在住の満18歳以上の
男女個人（住民基本台帳から
無作為抽出）

■有効回収数

1,080件

■有効回収率

54.0%

区役所業務への要望

要望をみると、「地震や風水害への対策」（46.0%）が4割半ばで最も高く、次いで「道路、歩道の整備」（37.5%）、「子ども子育ての支援」（37.3%）、「街頭犯罪の防止」（33.9%）となっている。（報告書P18）



子ども子育ての支援

高齢者関係の事業

(複数回答)

高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～

区民アンケートからどのようなニーズが読み取れるかな？（一例）

- 人と人とのつながりや、気軽に集える場所が大切になっている

区民アンケートでは、「近隣の住民同士の関係が薄れている」ことをまちの課題・問題点に挙げる区民の割合が多いよ



身近に集い憩える場所、多くの区民が参加できるようなイベントの開催に対するニーズが高いかも

- 子どもや子育ての支援が求められている

区民アンケートでは、「区役所業務への要望」として、子どもや子育ての支援を挙げる区民の割合が多いよ



子どもの遊び場や子育て中の親が交流できる場の提供に対するニーズが高いかも

高津区の特徴 ～高津区ってどんなところ？～

区民アンケートからどのようなニーズが読み取れるかな？（一例）

・ 高齢者に関する取組が求められている

区内の高齢化率は18.8%（令和元（2019）年10月現在）と全市平均より低い状況だけど、今後は高齢者の増加が見込まれているよ



高齢者が集まれる場所の提供や健康づくりに関する講座・イベントの開催が求められているかも

・ 地域資源を知ってもらう取組が求められている

区内には、大山街道や橘樹官衙遺跡群をはじめ、受け継がれてきた歴史と培われてきた文化が蓄積されているよ

区民アンケートでは、名所旧跡などの地域の魅力があまり知られていないという課題が上がっているよ



貴重な文化資源を活用した地域振興のニーズがあるかも

「西高津・高津・東高津地域」 の状況について

～ 地域の特性 ～

地域設定の考え方

今回のモデル地域である「西高津・高津・東高津地域」は、中学校区を基本単位としつつ、「地域ケア圏域」※を踏まえ、仮設定したものです。
西高津・高津・東高津地域には、91施設の公共施設が存在します。

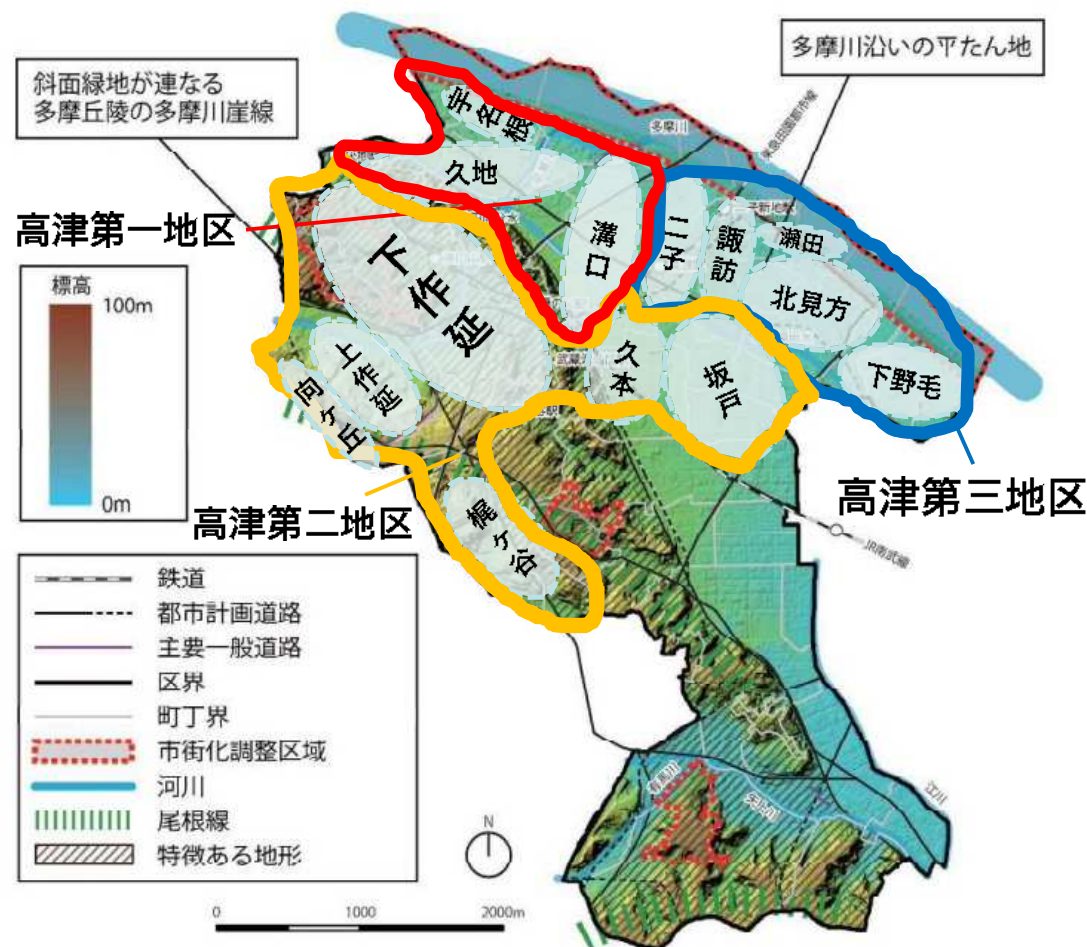
（施設数は、川崎市公共施設白書【令和3（2021）年度版】を基にしています。）

※ 地域の状況を見える化し、地域づくりの更なる推進に向けて、歴史や文化に根差した地域をベースとして行政区よりも小さい範囲として設定した圏域。
全市で44の圏域から成る。

「西高津・高津・東高津地域」の状況について～地域の特徴～

モデル地域と地域ケア圏域

- 高津区の「地域ケア圏域」は、以下のとおり。
- 高津地区（3地区：高津第一地区、高津第二地区、高津第三地区）
- 橘地区（1地区：橘地区）
- 「西高津・高津・東高津地域」は上記のうち、高津地区を範囲として設定したもの。



「西高津・高津・東高津地域」の状況について～地域特性～

地域特性①

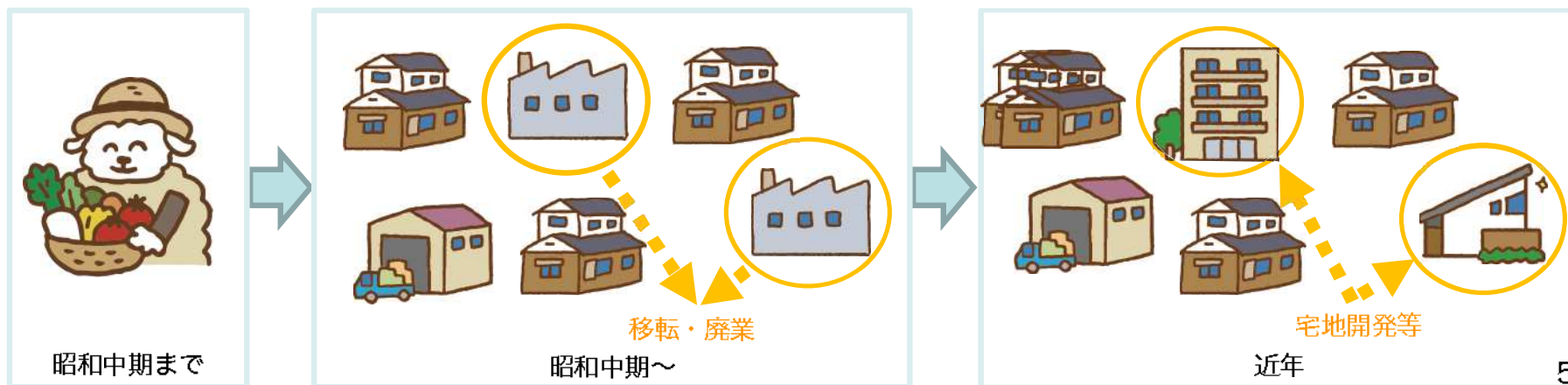
高津第一地区・高津第三地区は生産年齢人口が多い地区

- 高津第一・第三地区では、人口における生産年齢人口割合が高津区及び市全体と比較して約5%大きくなっています。

- ・ 高津第一及び第三地区は当初、大山街道沿道地区以外は農業が主体の地区でしたが、戦後、中小ものづくり工場の集積が進みました。
- ・ 近年はそれらの工場の移転や廃業により、跡地がマンションなどの宅地になる傾向が見られます。

工場の移転や廃業による跡地の宅地転換や都心への良好なアクセス等により、若年層世帯や単身世帯等が転入してくる傾向があるかも

高津第一地区・高津第三地区の変遷イメージ



「西高津・高津・東高津地域」の状況について～地域～

地域の特性①

高津第一地区・高津第三地区は生産年齢人口が多い地区



子育て世代向けの活動
場所の確保や関連する
情報、サービスの提供
があると便利かも

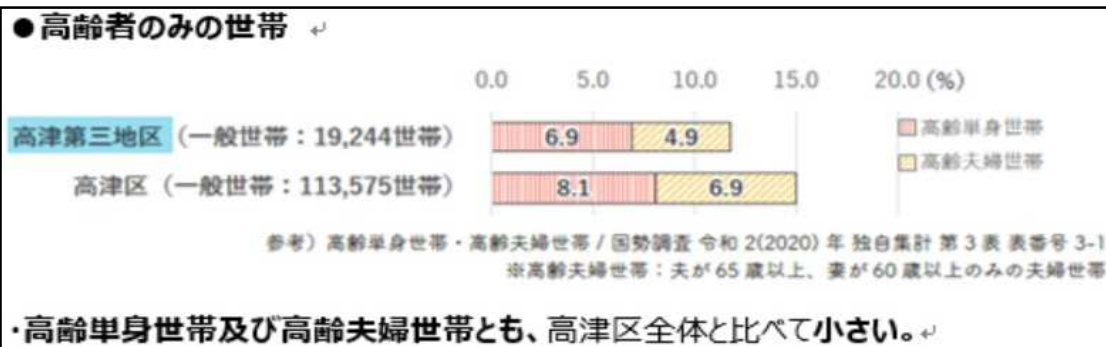
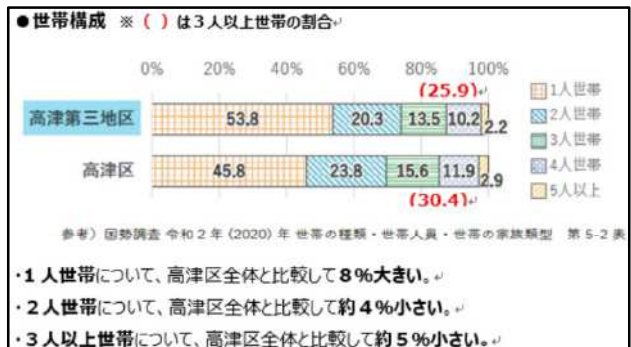
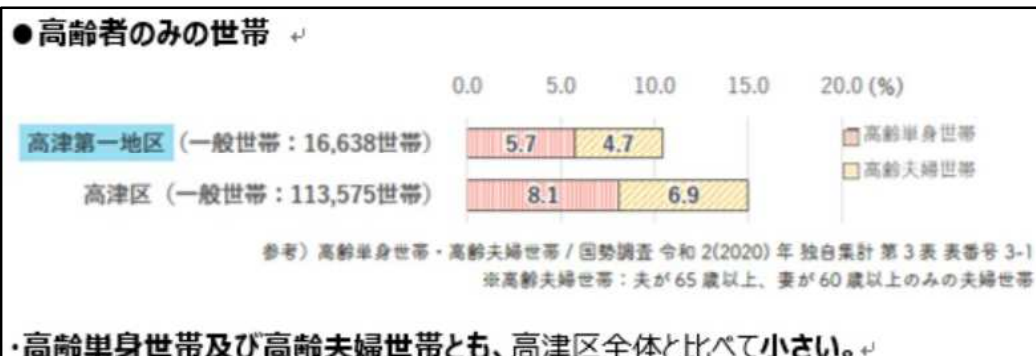
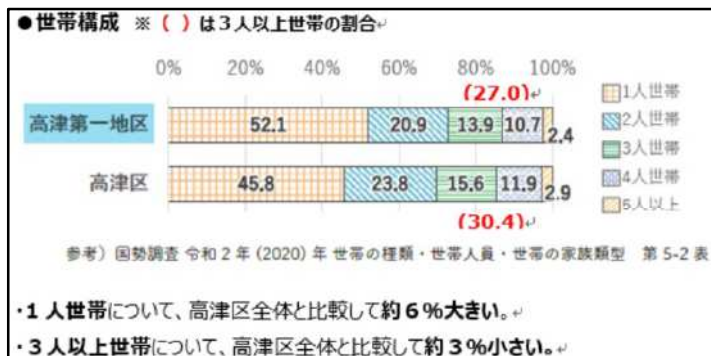


「西高津・高津・東高津地域」の状況について ～地域の特徴～

地域の特徴②

高津第一地区・高津第三地区は若年層単身世帯が多い地区

- 高津第一・第三地区の世帯構成は、1人世帯が過半数を超えています。
- 高齢者のみの世帯の割合は、区全体と比較すると少なくなっています。

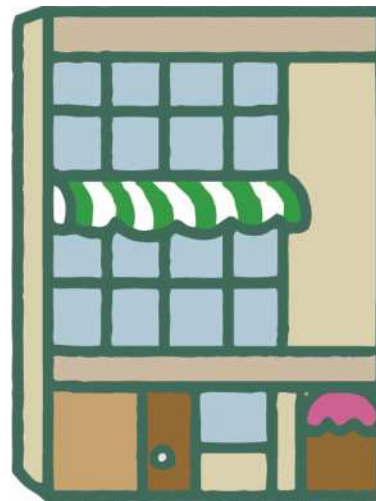


「西高津・高津・東高津地域」の状況について ～地域の特徴～

地域の特徴②

高津第一地区・高津第三地区は若年層単身世帯が多い地区

東急田園都市線及び大井町線により都心とのアクセスが良く、昼間人口が夜間人口より少ないので、都内へ通勤、通学する若年層世帯、単身世帯、学生が比較的多いのかも



平日夜間や土日に活動ができる場や関連する情報、サービスの提供があると便利かも



「西高津・高津・東高津地域」の状況について ～地域の特徴～

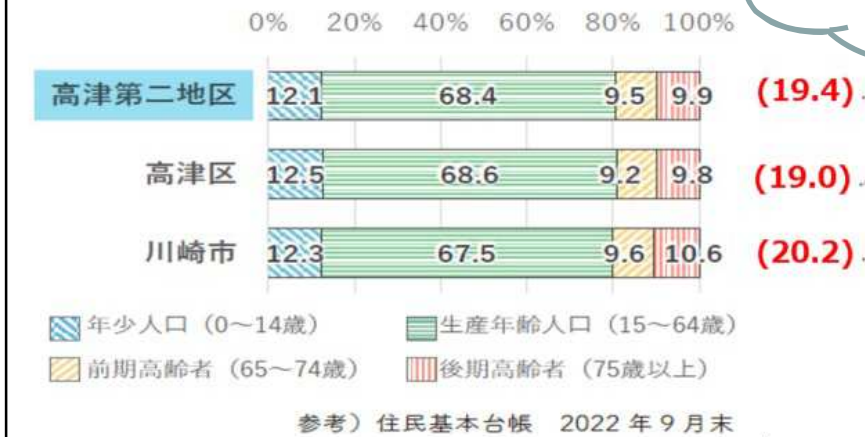
地域の特徴③



高津第二地区は区内では高齢化割合が多い地区

- 高津第二地区の人口構成について、高津区全体、高津第一及び第三地区と比べ **高齢者の割合が多くなっています**
- 高津第二地区は多摩丘陵の始まりの位置にあたり、多摩川沿いの平地から一転して起伏が大きくなります。

●人口構成 ※ () は 65 歳以上の割合



通院や買い物、公共施設への移動のための労力は大きく、特に高齢者への移動への支援が求められるかも



比較的元気な高齢者の介護予防につながる活動ができる場所、サービスの提供が求められるかも



地域の特性に合った
魅力的な公共施設の
使い方を考えてみましょう

4

意見交換

意見交換の流れ

意見交換①

65分

地域の魅力的な将来像を考えよう

20年後の世界に住む人について考える＝ペルソナ

その人々が暮らす将来の地域についてみんなで考える＝将来像



中間発表・休憩

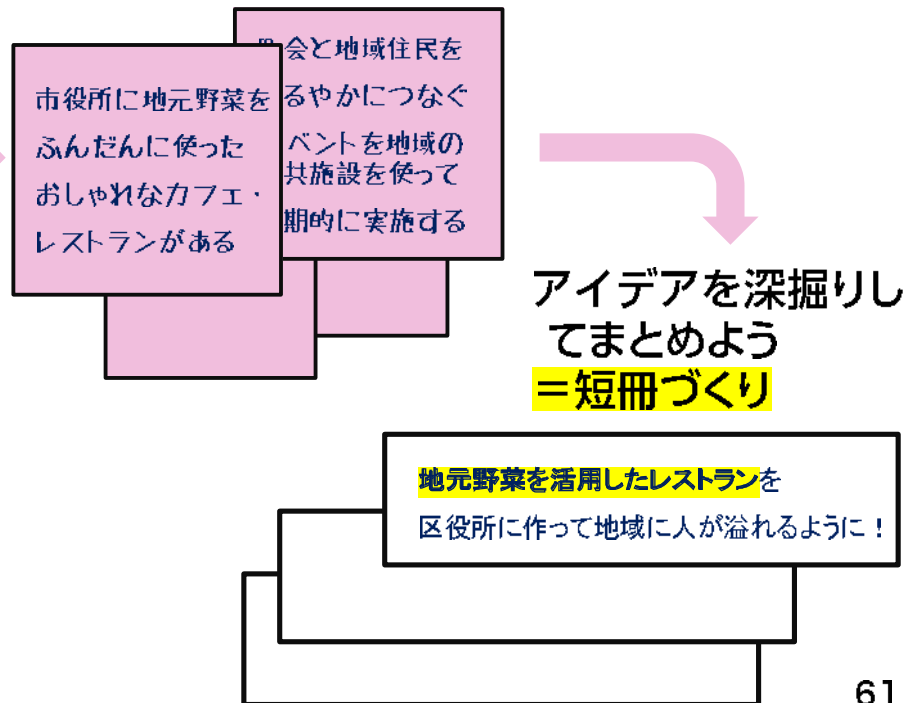
意見交換②

60分

地域の魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考えよう

将来像の実現のために公共施設がどのように使えるとよいか考える＝アイデア

発表・まとめ



意見交換①

～地域の

魅力的な将来像を考えよう～

意見交換①

地域の魅力的な将来像を考えよう

1) どんな人がまちにいて、その人がどんな 日常を過ごしているのか考えよう (15分)

(日常の楽しみや困っていることなど)

【個人ワーク】

1人1枚、20年後の川崎市で暮らしている人について書かれた

た「ペルソナカード」を選ん

で、その人物の「日常の過ごし

方」や、「困っていること」を考

えて書き足そう

PERSONA CARD

2044年の地域にいる人物のイメージ



東京都内の企業
で働く会社員

どんな人

- ・都内で働く30代会社員で住まいは川崎市内
- ・趣味は食べ歩き
- ・雑誌編集が仕事。忙しく会社と家との往復の毎日。リモートワークもしている
- ・地域活動等には参加していない

地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？
(2044年現在)

- ・学生時代の友人とおしゃれなカフェ巡りを楽しんでいる
- ・地域の情報がよくわからない

意見交換①

地域の魅力的な将来像を考えよう

【ペルソナカード】

各グループにペルソナカードが配られています。

カードには「**人物のイメージイラスト**」「**どんな人か**」（設定）が記載されています。

その設定をもとに、「**地域で何をして過ごしているか？ 困っていることは何か？**」を想像して書き込みましょう。

ペルソナカードには、全区共通カードと、各区のカードとがあります。

各グループ、各区のカードから最低1枚は選んで考えてみましょう。

PERSONA CARD

2044年の地域にいる人物のイメージ



東京都内の企業
で働く会社員

どんな人

- ・都内で働く 30 代会社員で住まいは川崎市内
- ・趣味は食べ歩き
- ・雑誌編集が仕事。忙しく会社と家との往復の毎日。リモートワークもしている
- ・地域活動等には参加していない

地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？
(2044 年現在)

- ・学生時代の友人とおしゃれな
カフェ巡りを楽しんでいる
- ・地域の情報がよくわからない

※自分で全て考えたい方向けに、空欄のペルソナカードと参考になるイラストもご用意しています。

地域の魅力的な将来像を考えよう

2) 自分たちが考えた人たちがいきいきと暮らしている地域の将来像を出し合おう

(45分)

【グループワーク】

自分が考えた人物像をグループでシェアする

全員分出たら、その人物たちがいきいきと暮らしている地域の将来像を黄色のふせんに書いて出し合おう

人物たちを思い浮かべて

「地域がこうなっていると良い」を書いてみよう



若者が起業したくなる
おしゃれな
コワーキングスペース
があると良い

ふせん1枚につき、
1つのことを書こう

意見交換①

地域の魅力的な将来像を考えよう

3) 中間発表 (5分)

グループで出たご意見を発表します
(印象的なキーワードを中心に
ファシリテーターが1分程度で発表)



- 休憩（きゅうけい） -
(10分)

意見交換②

～魅力的な将来像を実現するための
公共施設の使い方を考えよう～

意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方を考えよう

1) 地域の公共施設を生かしたアイデアを出し合おう

意見交換①で出した「地域の将来像」を実現するために、

モデル地域の公共施設をどのように使えると良いか考えよう！ (40分)

PERSONA CARD

2044年の地域にいる人物のイメージ



東京都内の企業で働く会社員

どんな人

- ・都内で働く30代会社員で住まいは川崎市内
- ・趣味は食べ歩き
- ・雑誌編集が仕事。忙しく会社と家との往復の毎日。リモートワークもしている
- ・地域活動等には参加していない

地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？ (2044年現在)

- ・学生時代の友人とおしゃれなカフェ巡りを楽しんでいる
- ・地域の情報がよくわからない

PERSONA CARD

2044年の地域にいる人物のイメージ



農家

どんな人

- ・40代で妻と子ども2人の4人家族
- ・野菜農家をしており、日々の様子をSNSで積極的に発信している

地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？ (2044年現在)

- ・友人から、自分の育てた野菜を使ったレストランを開きたいと相談があった

地域の将来像

徒歩圏内に地産地消の食材を使ったカフェやお店が増えて、遠くからも訪れる人が増えた

アイデア

市役所に地元野菜をふんだんに使ったおしゃれなカフェ・レストランがある

ピンクのふせんに書こう

意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方を考えよう

PERSONA CARD	
2044年の地域にいる人物のイメージ  町会役員	どんな人 ・妻と二人暮らしをしている ・近所に息子夫婦が住んでいる ・町会役員として地域活動をしている ・市役所の様々な会議に、委員として参加している 地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？ (2044年現在) 役員は高齢化して70・80代が多いが、ITを使いこなして会議はオンライン、事務はAIで省力化できている 日頃の活動場所が不足している <u>イベント時に若い人の協力が必要</u>
2044年の地域にいる人物のイメージ  IT 起業家	どんな人 ・30代でパートナーと2人暮らし ・よくスポーツを観戦しにスタジアムに行く ・福祉の課題をITを使って解決するため、3人で会社を設立した。そのフィールドは川崎 ・都内のワーキングスペースと自宅とで活動 地域で何をして過ごしている？ 困っていることは？ (2044年現在) <u>リモートワークなので、住まい周辺にも知り合いが欲しいがどうやってつながったらいいかわからない</u> デジタルネイティブなのでオンライン上には友達がたくさんいる

公共施設を使ったアイデアが思いつかなければ**施設の活用**にしばらく、**自由なアイデア**でOKです！

地域の将来像

AIがサポートする
地域交流ネットワーク
で近くに住む人同士が
ゆるやかにつながる
まち

アイデア

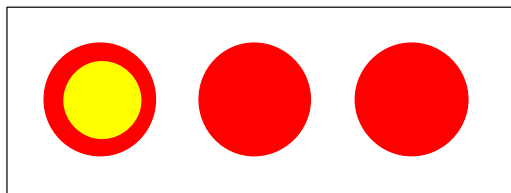
町会と地域住民を
ゆるやかにつなぐ
イベントを
地域の公共施設を使って
定期的実施する

ピンクのふせん
に書こう

意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方を考えよう

2) シール投票 (5分)

公共施設を使って実現できそうなアイデアについて、
1人につきシール3枚を良いと思ったアイデアに貼ろう！



↑1番シール

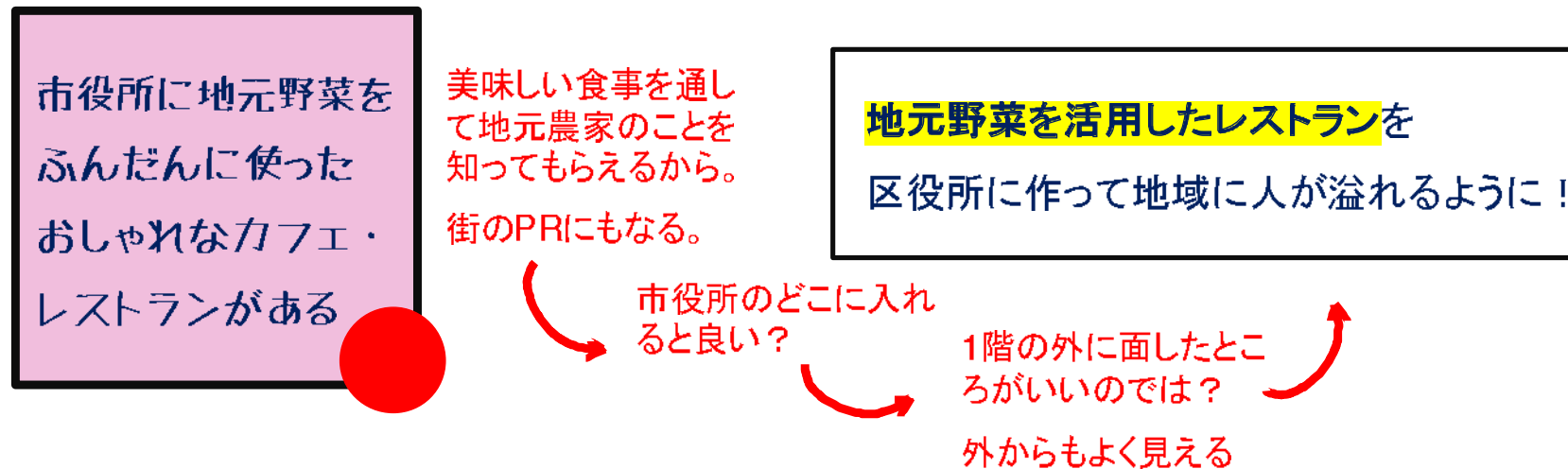
1番良いと思うアイデアに貼る

意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方を考えよう

3) 短冊づくり (10分)

シールの多かった意見を中心に、貼った理由を深掘りし、
アイデアを具体化させます。それを、短冊*2～3枚に
まとめよう！

*短冊には、アイデアを具体化させて1文にしたものを書き込むよ



意見交換② 魅力的な将来像を実現するための 公共施設の使い方を考えよう

4) 発表・まとめ (15分)

- グループで**発表者**を決めよう
- 話し合ったことを発表しよう (2分程度)



6

川崎市からの説明③

~第3回以降のワークショップで
検討する施設について~

~今後のワークショップの進め方について~

第3回以降のワークショップで検討する施設について

今回、意見交換していただいた

こうなった
らしいな！

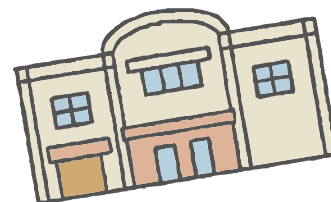
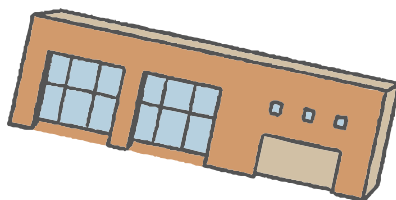
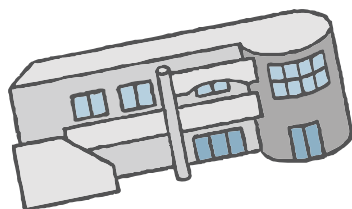
「モデル地域の魅力的な将来像」

「魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方」



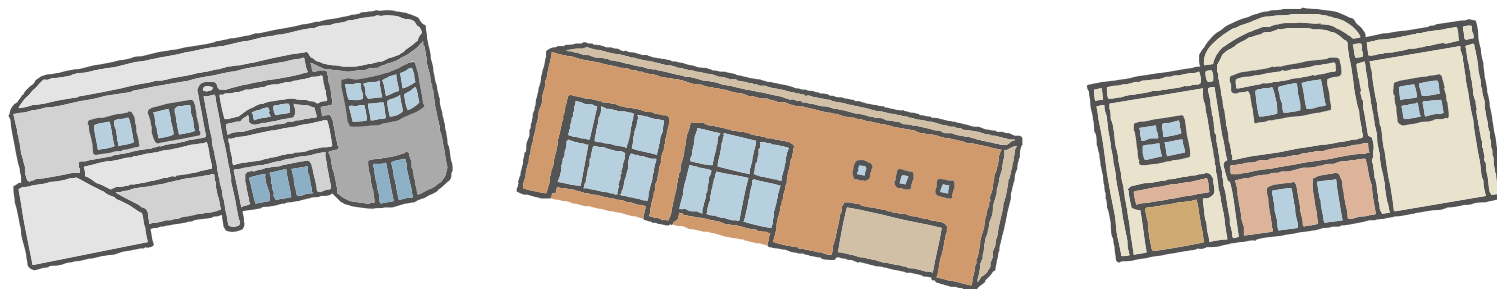
夕方以降にも使
えないかな？

を基に、第3回以降、モデル地域における
具体的な施設の使い方について検討していきます。



第3回以降のワークショップで検討する施設について

個々の施設について、
使い方を検討することが重要ですが、
一方、モデル地域内には、
多くの公共施設が存在しています。



第3回以降のワークショップで検討する施設について

「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」

では、個々の施設の使い方について、

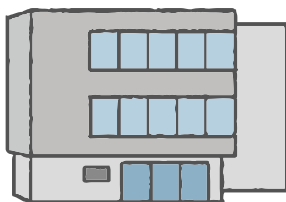
川崎市から施設の状況を丁寧に説明した上で、

様々な視点から意見交換

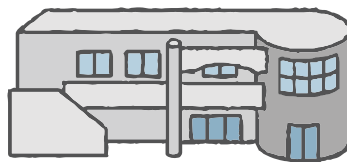
をしていただくことが重要と考えています。

第3回以降のワークショップで検討する施設について

そのために、多くの公共施設の中から
ワークショップで検討する施設を選ぶ必要がある
と考えています。



では、どのような施設を検討すればよいでしょうか？



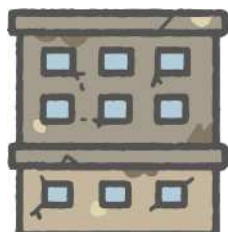
第3回以降のワークショップで検討する施設について

川崎市としては、

「老朽化による施設機能の低下等」や「施設の使われ方」
(施設の利用状況) が課題だと考えています。



「より老朽化が進んでいそうな施設」や、
「施設の使われ方に課題がありそうな施設」を
検討していきたいと考えています！



第3回以降のワークショップで検討する施設について

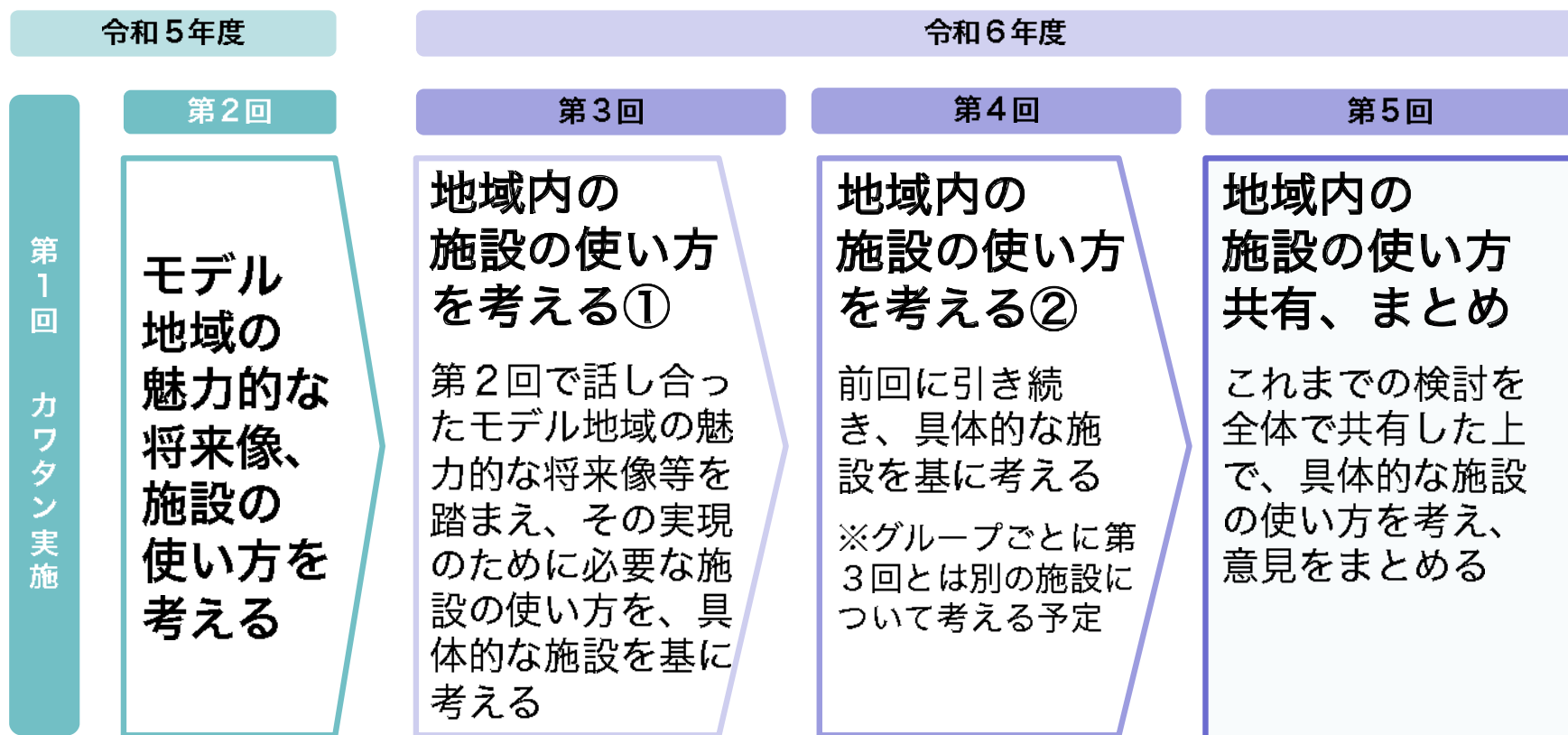
また、「より老朽化が進んでいそうな施設」や、
「施設の使われ方に課題がありそうな施設」だけでなく、
その近くにある施設も併せて検討することが効果的です。



こうした考え方を基に、意見交換していただく施設について、事務局で整理した上で第3回ワークショップにて改めてお示しいたします。

今後のワークショップの進め方について

第3回以降は、概ね以下のような内容を予定しています。
詳細については、各回の開催案内時に改めてお伝えいたします。



(※) 第3回以降のワークショップについて、全ての施設について意見交換するわけではないため、第2回ワークショップにおける「施設の使い方」があてはまらない場合もありますが、いただいた「施設の使い方」については、本市において施設の検討を行う際に活用させていただきます。

ありがとうございました！

アンケートにご回答いただき、謝礼のお渡しとなります。